障害者防災集会
犠牲者に黙とう

豊橋・手をつなぎ

豊橋市の豊橋障害者（児）団体連合協議会は「3・11を忘れない障害者の防災を考える集い」を、市の穂の国とよはし芸術劇場PLATで開いた。

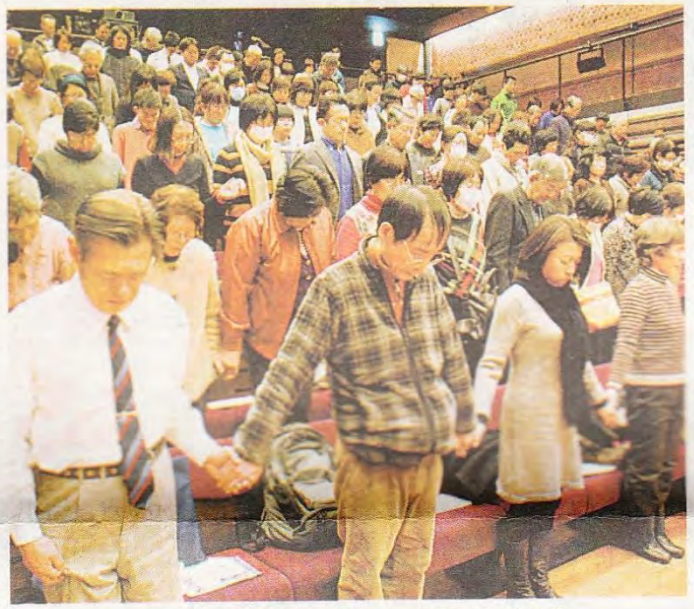
震災発生時刻に合わせ、参加者は隣同士で手をつないで、犠牲者に黙とうをささげた。

また、震災時に何が求められるかを学ぶため、被災した聴覚障害者を追ったドキュメンタリー映画「架け橋 きこえなかった3・11」などを上映した。

同協議会の山下徹会長は「災害の悲しむ気持ちを大事にし、災害を教訓に次のステップに向かうことが大事だ」と呼び掛けた。

一方、同市野依、天伯校区自治会と「福祉村」を運営するさわらび会はこの日、災害時の要援護者受け入れの防災協定を締結した。

【清藤天】



手をつなぎ、黙とうをささげる参加者＝豊橋市で

２０１４年3月１２日　毎日新聞朝刊

被災地思い語り継ぐ「命」

各地 取り組み通じ支援誓う

もう3年 まだ3年 東日本大震災

悲劇から何を学ぶべきか。犠牲者や被災地に思いをはせ、自分に何ができるのか。東日本大震災は今も、われわれに重いテーマを突き付けている。発生から三年を迎えた十一日。東三河各地でも、それぞれの立場で被災地に学び、支援し、語り継ごうとする取り組みがあった。

（西田直晃、那須政治、坂口千夏）

■追悼集会

豊橋市の桜丘高校は夕方、豊橋駅前で追悼集会を開いた。在校生や卒業生ら二百人が参加した。

二百本のろうそくの灯で「命 3・11」と浮かび上がらせた。犠牲者に黙とうをささげ、和太鼓部が鎮魂の思いを込め演奏した。

生徒たちは震災直後から、宮城県気仙沼市でのボランティアや、豊橋駅前での募金を続けている。

二十日から四十四人が現地を訪ねる。二年生黒松輝一朗君は「被災地は今回で六度目になるが、復興が終わっていないことを実感する。人の傷は癒えていない」と話す。

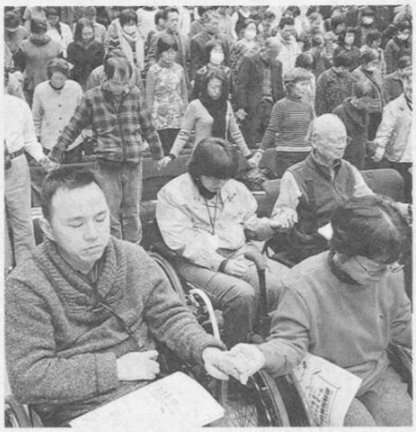
桜丘高のボランティア活動に触れ、気仙沼市の離島・大島から入学した一年生村上千晶さんは「私も街頭募金に参加したい。震災を忘れないでください」と訴えた。

■障害者の防災

豊橋障害者団体連合協議会は豊橋市内で「障害者の防災を考える集い」を開いた。二百人が参加した。

豊橋聾学校出身で、被災地のろう者に密着したドキュメンタリー映画「架け橋―きこえなかった3・11」を撮影した今村彩子さん（三四）が手話で講演。「ろう者のほかにも、仮設住宅で移動に苦労している車いす利用者や、薬が足りずに困っている精神障害者もいる」と被災地の現状を紹介した。

来場者たちは隣の人と手をつなぎ、黙とう



障害者の防災を考える集いで、震災発生時刻に手をつないで黙とうする人たち＝豊橋市の穂の国とよはし芸術劇場プラットで

止対策を呼び掛ける「タイシンジャー」など五人組。昨年四月に発足した防災委員会の十人が考え、美術部員三年の小田亜美さんがデザインした。

親しみやすいキャラクターがあれば、小さい子どもにも、震災時の素早い避難や水など備蓄の大切さを説明しやすいと考えた。

■復興いなりずし

豊橋市西幸町の「纏（まとい）ずし」は、復興支援のいなりずし「復興五色稲荷（いなり）」を作った。二〇一一年夏から販売を続け、ふだんは一食あたり五十円を宮城県石巻市の船越地区に義援金として送るが、十一日は、全額を義援金とした。

店主の小池勉さん（六四）によると、普段より注文が多く、店内の募金箱にお金を入れる人も目立った。「とてもありがたいこと。この地域では震災の記憶が忘れ去られつつあるが、今後もずっと販売を続ける」と話す。

五色稲荷は、持ち帰りは七百五十円、店内では他のメニューとセットで千二百円（いずれも税込み）。

■役所では

豊橋市や田原市、新城市などで庁舎に半旗を掲揚したり、黙とう

２０１４年３月１２日　中日新聞朝刊

震災3年 鎮魂、支援、教訓 忘れない3・11

東日本大震災から3年を迎えた11日、東三河でも追悼行事などが行われた。豊橋市中心部の通りには弔旗が掲げられ、犠牲者への弔意を表した。一方、発生以来、復興支援活動を継続する市民団体や、防災への意識を高める1日にした団体もあり、さまざまな思いでこの日を迎えた。 （1面参照）

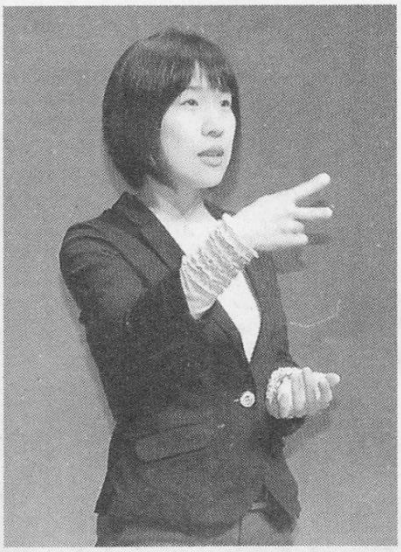
自分たちの命どう守る

障害者の防災を考える集い

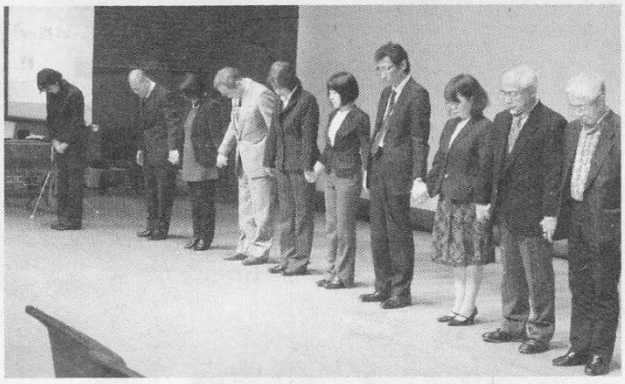
豊障連

豊橋障害者（児）団体連合協議会（豊障連、山下徹会長）は11日、穂の国とよはし芸術劇場で「3・11を忘れない 障害者の防災を考える集い」を開催。参加者230人が東日本大震災被災者へ鎮魂の思いを捧げたほか、障害者らの災害時における物心の備えについて考えた。

豊障連が指定管理者を務める同市障害者福祉会館「さくらピア」での、5年にわたる当事者主体の〝避難所体験〟の取り組みが、第18回防災まちづくり大賞「総務大臣賞」を受賞したことを記念した催し。豊障連を構成する6団体やボランティア、関心のある市民らが参加した。



講演する今村さん ＝穂の国とよはし芸術劇場で



手をつなぎ、被災者への黙とうを捧げる豊障連役員ら＝同

山下会長は「震災を教訓に次のステップに向かうことが大事。自分たちの命をどう守るかを考える必要がある。きょうの日を記憶に残し、次への準備をして」などとあいさつ。

防災まちづくり大賞の受賞報告に続き、震災数日後に被災地へ向かい、2年4カ月にわたり現地の障害者らを追ったドキュメンタリー映画「架け橋」を制作した、ろうの映像作家・今村彩子さんが「命に関わる情報に格差があってはならない」と題して講演。取材中のエピソードなどを披露した。

講演後の午後2時46分、皆が手をとり被災者へ黙とう。続いて「架け橋 きこえなかった3・11」を上映した。

（田中博子）

２０１４年3月１２日

東愛知新聞朝刊